

V131a SKA プロジェクトへの参加計画 4

小林秀行, 赤堀卓也, 河野裕介, 廣田朋也, 小山友明, 寺家孝明, 砂田知良, 亀谷收, 本間希樹 (国立天文台 SKA1 検討グループ) 高橋慶太郎 (熊本大学)

本講演では、SKA 計画の進捗と日本の参加計画の検討の進捗状況について報告する。SKA1 計画は、2021 年 5 月から国際機関としての SKA Observaory が国際条約に基づいて発足した。併せて建設計画と 10 年間の運用計画が承認され、建設が開始されている。建設費、10 年間の運用費を合わせた総額は、1,986M ユーロである。各国の分担についてもほぼ決定し、SKA 本部と各参加国間での建設仕様書の策定と予算貢献額の調整が進められており、今年度内にほとんどの契約を完了させる予定で進んでいる。日本では、2008 年に組織された SKA Japan コンソーシアムを中心に科学検討が進められてきており、Key Science Project の検討のために Science Working Group にも参加している。2019 年からは国立天文台の SKA1 検討グループが組織され、参加の検討、交渉が進められており、発足した国際機関 (SKAO) の理事会にオブザーバとして参加している。日本は AIV (Assembling, Integration, and Verification) に参加する意図を示しており、2020 年からは SKA1 LOW/MID への AIV 活動に in-kind に参加が始まっている。MID は主担当国が南アフリカで、その他に日本とポルトガルが参加している。LOW は、主担当国はオーストラリアで、その他に日本とオランダが参加している。SKA Reginal Center の検討 WG にも参加し、システムの検討を進めている。これらを踏まえて、また 2022 年からのプロジェクト化を目指して、プロジェクト提案を準備しており、日本の参加案の検討状況を報告する。